日本人会の社会貢献活動

◉特集

シーカー・アジア財団
プラティープ財団
クロントイ幼稚園
Social Development and Service

クロントイ地区4団体にチャリティー基金寄付金贈呈式

3月19日(木)にクロントイ地区を訪問し、4団体に総額52万4360バーツを寄付致しました。

贈呈式には、在タイ日本国大使館より小林広報文化部長、日本人会より島田会長、チャリティー運営委員会の西村委員長、富永理事に出席いただきました。

日本人会では、昨年9月に実施された日本人会チャリティーバザーの純益金や企業・団体・個人の方々からの現金寄付を原資に、タイで社会貢献活動を行っている団体を支援しています。支援先はチャリティー基金運営委員会で厳正なる審議の上、決定しています。

支援団体と寄付金等

▼シーカー・アジア財団

【寄付】13万8360バーツ

スラム、農村児童の研修キャンプ活動、環境整備（対象120名）

シーカー・アジア財団
Sikkha Asia Foundation

プラティープ財団
Duang Prateep Foundation

クロントイ幼稚園
ศูนย์พัฒนาและบริการคลองเตย
スーン・パッタナ・レ・ボリカーン・クロントイ

▼プラティープ財団
【寄付】10万バーツ
スラムの青少年リーダー育成事業（対象60名）

▼クロントイ幼稚園
【寄付】20万6000バーツ
①遠足活動（新型肺炎の影響で中止⇒伝染病対策備蓄品購入費に充当）、②臨時職員の人件費（対象60名）

▼Social Development and Service (Football)
【寄付】8万バーツ
クロントイ・スラム地区の青少年の非行防止のためのサッカー活動支援（ユニフォーム制作費用）（対象200名）

写真（P4-5, P8コラム）／ムシカシントーン小河修子

タイのスラム問題の実情

クロントイ・スラムから

八木澤克昌
公益社団法人シャンティ国際ボランティア
アジア地域ディレクター

クロントイ・スラムは、人口約10万人が暮らすバンコク最大のスラム。住民の多くはタイ社会の生活インフラを低賃金労働者として支えています。長年、現場で教育支援などの活動に従事されてきたシャンティ国際ボランティアの八木澤克昌さんに、タイのスラムとクロントイの実情に関してご寄稿いただきました。

「スラム」の定義とは

スラム（slum）とは、国連の定義によると「人口が密集し、老朽化し、衛生、健康や安全、生活環境に問題がある建物、建物群、または地域」とされています。スラムの定義は、時代と国や地域、行政機関によっても異なります。

タイのバンコクの都庁（MBA）のコミュニティ開発局のスラムの定義は、「人口密集コミュニティ」（チュムチョン・エーアット）。1ライ（1600㎡）に密集して暮らし不衛生、居住環境が劣悪で15世帯以上が暮らす地区としています。さらにコミュニティを

①「郊外コミュニティ」
②分譲住宅地区
③公社住宅地区

写真／八木澤克昌氏提供

10万人が生活するクロントイ・スラム。奥の高層ビル群はスクムビット地区に続く

④都市コミュニティ

と分類しています。

こうした都市の低所得者が多く暮らすコミュニティ全般を広義の「スラム」と定義した場合のバンコクのスラムの人口は、２０７０地区、２０９万５２９人（バンコク都庁開発局　２０１９年1月）としています。バンコク都庁が定義する狭義のスラムの「人口密集コミュニティ」は、６６２ヵ所、68万５２４０人。スラム研究者やスラム支援の団体の間では、広義のスラム２０７０カ所、２０９万５２９人の数字が広く認められています。

バンコク都庁の統計等では、バンコクのスラムの数は、１９８５年に９４３ヵ所、96万５００人。１９９６年、１２４６ヵ所、１２４万７２００人。２００６年、１７７４ヵ所１８０万６０００人と年々増加傾向にあります。バンコクの人口の中で占める割合も20パーセントから30パーセント前後を占めています。実にバンコクの人口の約５人に1人がスラムに暮らしていることになります。

「クロントイ・スラム」とは

クロントイ・スラムは、人口約10万人が暮らすバンコク最大のスラムです。シーカー・アジア財団やドゥアン・プラティープ財団などが長年にわたり教育等の活動を支援しています。

クロントイ・スラムは、チャオプラヤー川沿いにあるクロントイ港に隣接し43の地区から形成されています。面積は、２３５７ライ。土地の所有者は、タイ政府の港湾局です。現在、この港湾局の所有する26地区約６万人に再開発計画に伴う立ち退き問題が浮上しています。

スラムの住民の多くは、地方農村から仕事を求めて定住した出稼ぎ労働者です。不安定な日雇いの荷役等の港湾、建設現場、輸送、市場、屋台、露天、行商、清掃、警備員、タクシーの運転手等です。タイ社会の生活インフラを低賃金労働者として支えています。

スラムの住民は、貧困、居住環境、居住権、教育、収入と経

改善されてきたとはいえ、環境は衛生面でも問題がある

細い路地に軒が連なる

エビの加工場で働く人々

済、健康、火事、麻薬問題など様々な課題に直面しています。スラムに住んでいるだけで、子どもが虐められたり、就職差別にあったりもしています。

クロントイ・スラムの住民は、貧困と劣悪な居住環境、麻薬の横行等の社会問題を反映し、現在もタイ社会から差別と偏見にも直面しているのが現実です。

移民労働者問題

クロントイ・スラムでも近年カンボジアやミャンマー等からの移民労働者が増えています。地区によっては、住民の約１割を占める程です。港の荷役や建設現場、清掃やメイドの仕事に就いています。スラムも国境を超えて形成される時代となっています。

タイ全体では、陸続きの隣国のミャンマーから３００万人、カンボジアから１３０万人、ラオスから60万人と推定されています。仕事はタイ人が嫌がる３Ｋ労働の港湾や建設現場、農業、漁業、海鮮産業、生鮮市場、さらに日本人が利用するメイド、清掃、ホテル、レストラン、居酒屋等と多岐に渡っています。タイは、深刻な少子高齢化により労働者が不足し、隣国は農業以外に産業も乏しく、仕事を求めてタイへと国境を越えています。タイの産業や経済は移民労働者を抜きには成り立たない時代。タイと隣国が国境を越えて相互に依存する関係となっています。

タイに暮らす日本人にとっても無意識の内に移民労働者が建設に関わったショッピングセンター、コンドミニアムやホテルを利用し、タイ料理のエビや魚等も移民労働者を抜きに食べることのできない時代となっています。

今、タイに暮らす日本人にとってもタイの生活インフラを支えるスラムや隣人の移民労働者の存在や生活を少しでも知ることが大切な時代になっているのではと思います。

布マスク5200枚発注

シーカー・アジア財団運営の縫製工房に雇用支援

新型コロナウィルス（COVID-19）の感染拡大防止のため、日本人会チャリティー基金よりマスクを通じた雇用支援（総額15万バーツ相当）を行うことを決定し、５月11日（月）にクロントイ地域で贈呈式を行いました。

約10万人が暮らしているクロントイ・スラムの地域支援として、スラム内にあるシーカー・アジア財団が運営するマスク工房に布製マスクを5200枚（約15万バーツ）を発注し、約１ヵ月分の雇用を支援いたしました。こちらのマスク工房では３月からマスク生産を手がけ、１日あたり約350枚を生産しています。

現在、非常事態宣言下のバンコクでスラム地域に住む多くの方々が普段従事しております建設業、港湾荷受、デパートなどの清掃、マッサージ店の休業などで仕事を失っている現状が既に報道されております。この支援には、タイに住む日本人社会として、スラム地域の女性たちが生産する布製マスクを購入することで仕事と収入を確保すると同時に、感染拡大予防にも繋がる仕組みを応援したいというメッセージが込められています。マスクは、日本人会会員5200世帯にお届けし、更に日本人コミュニティから追加発注・地域へ無償配布していただけるようＰＲし、地域社会への雇用継続に繋げていきたいと考えています。

※布製マスク発注のお問い合わせはp10のシーカー・アジア財団をご覧ください。

コロナ禍で仕事を失った住人も多い